

平成30年度 東京大学2次試験前期日程(数学問題)150分
理科(一類, 二類, 三類) 数I・II・III・A・B

問題 1 2 3 4 5 6

1 関数

$$f(x) = \frac{x}{\sin x} + \cos x \quad (0 < x < \pi)$$

の増減表をつくり, $x \rightarrow +0$, $x \rightarrow \pi - 0$ のときの極限を調べよ.

2 数列 a_1, a_2, \dots を

$$a_n = \frac{2^{n+1} C_n}{n!} \quad (n = 1, 2, \dots)$$

で定める.

- (1) $n \geq 2$ とする. $\frac{a_n}{a_{n-1}}$ を既約分数 $\frac{q_n}{p_n}$ として表したときの分母 $p_n \geq 1$ と分子 q_n を求めよ.
- (2) a_n が整数となる $n \geq 1$ をすべて求めよ.

3 放物線 $y = x^2$ のうち $-1 \leq x \leq 1$ をみたす部分を C とする. 座標平面上の原点 O と点 $A(1, 0)$ を考える. $k > 0$ を実数とする. 点 P が C 上を動き, 点 Q が線分 OA 上を動くとき,

$$\overrightarrow{OR} = \frac{1}{k} \overrightarrow{OP} + k \overrightarrow{OQ}$$

をみたす点 R が動く領域の面積を $S(k)$ とする.

$S(k)$ および $\lim_{k \rightarrow +0} S(k)$, $\lim_{k \rightarrow \infty} S(k)$ を求めよ.

4 $a > 0$ とし,

$$f(x) = x^3 - 3a^2x$$

とおく. 次の2条件をみたす点 (a, b) の動きうる範囲を求め, 座標平面上に図示せよ.

条件1: 方程式 $f(x) = b$ は相異なる3実数解をもつ.

条件2: さらに, 方程式 $f(x) = b$ の解を $\alpha < \beta < \gamma$ とすると $\beta > 1$ である.

5 複素数平面上の原点を中心とする半径1の円を C とする. 点 $P(z)$ は C 上にあり, 点 $A(1)$ とは異なるとする. 点 P における円 C の接線に関して, 点 A と対称な点を $Q(u)$ とする. $w = \frac{1}{1-u}$ とおき, w と共役な複素数を \bar{w} で表す.

(1) u と $\frac{\bar{w}}{w}$ を z についての整式として表し, 絶対値の商 $\frac{|w + \bar{w} - 1|}{|w|}$ を求めよ.

(2) C のうち実部が $\frac{1}{2}$ 以下の複素数で表される部分を C' とする. 点 $P(z)$ が C' 上を動くときの点 $R(w)$ の軌跡を求めよ.

6 座標空間内の4点 $O(0, 0, 0)$, $A(1, 0, 0)$, $B(1, 1, 0)$, $C(1, 1, 1)$ を考える. $\frac{1}{2} < r < 1$ とする. 点 P が線分 OA , AB , BC 上を動くときに点 P を中心とする半径 r の球 (内部を含む) が通過する部分を, それぞれ V_1 , V_2 , V_3 とする.

(1) 平面 $y = t$ が V_1 , V_3 双方と共有点をもつような t の範囲を与えよ. さらに, この範囲の t に対し, 平面 $y = t$ と V_1 の共通部分および, 平面 $y = t$ と V_3 の共通部分を同一平面上に図示せよ.

(2) V_1 と V_3 の共通部分が V_2 に含まれるための r についての条件を求めよ.

(3) r は (2) の条件をみたすとする. V_1 の体積を S とし, V_1 と V_2 の共通部分の体積を T とする. V_1 , V_2 , V_3 を合わせて得られる立体 V の体積を S と T を用いて表せ.

(4) ひきつづき r は (2) の条件をみたすとする. S と T を求め, V の体積を決定せよ.

解答例

$$\boxed{1} \quad f(x) = \frac{x}{\sin x} + \cos x \quad (0 < x < \pi) \text{ より}$$

$$\begin{aligned} f'(x) &= \frac{1 \cdot \sin x - x \cos x}{\sin^2 x} - \sin x = \frac{\sin x(1 - \sin^2 x) - x \cos x}{\sin^2 x} \\ &= \frac{\sin x \cos^2 x - x \cos x}{\sin^2 x} = \frac{\cos x(\sin x \cos x - x)}{\sin^2 x} = \frac{\cos x(\sin 2x - 2x)}{2 \sin^2 x} \end{aligned}$$

ここで、 $g(x) = \sin 2x - 2x$ ($0 \leq x < \pi$) とおくと

$$g(0) = 0, \quad g'(x) = 2(\cos 2x - 1) < 0 \quad (0 < x < \pi)$$

したがって $0 < x < \pi$ のとき $g(x) < 0$

$f'(x) = \frac{g(x) \cos x}{\sin^2 x}$ により、 $f(x)$ の増減表は次のようになる。

x	(0)	⋯	$\frac{\pi}{2}$	⋯	(π)
$f'(x)$		-	0	+	
$f(x)$		↘	$\frac{\pi}{2}$	↗	

$$\text{また} \quad \lim_{x \rightarrow +0} f(x) = \lim_{x \rightarrow +0} \left(\frac{x}{\sin x} + \cos x \right) = 1 + 1 = 2$$

$$\lim_{x \rightarrow \pi-0} f(x) = \lim_{x \rightarrow \pi-0} \left(\frac{x}{\sin x} + \cos x \right) = \infty$$



$$\boxed{2} \quad (1) \quad a_n = \frac{{}^{2n+1}C_n}{n!} \quad (n = 1, 2, \dots) \quad \text{より} \quad a_n = \frac{(2n+1)!}{(n!)^2(n+1)!}$$

$$\begin{aligned} \text{ゆえに} \quad \frac{a_n}{a_{n-1}} &= \frac{(2n+1)!}{(n!)^2(n+1)!} \cdot \frac{\{(n-1)!\}^2 n!}{(2n-1)!} \\ &= \frac{(2n+1)!}{(2n-1)!} \cdot \frac{\{(n-1)!\}^2}{(n!)^2} \cdot \frac{n!}{(n+1)!} \\ &= 2n(2n+1) \cdot \frac{1}{n^2} \cdot \frac{1}{n+1} = \frac{2(2n+1)}{n(n+1)} \end{aligned}$$

連続する2つの整数の積 $n(n+1)$ は2で割り切れるから

$$\frac{a_n}{a_{n-1}} = \frac{2n+1}{\frac{1}{2}n(n+1)} \quad \dots (*)$$

このとき $2n+1 = 2 \cdot n + 1$, $2n+1 = 2(n+1) - 1$

$2n+1$ と n は互いに素, また, $2n+1$ と $n+1$ も互いに素である.

$$\text{よって} \quad p_n = \frac{1}{2}n(n+1), \quad q_n = 2n+1$$

$$(2) \quad a_1 = \frac{{}^3C_1}{1!} = 3, \quad a_2 = \frac{{}^5C_2}{2!} = 5, \quad (1) \text{ の結果から, } q_n \text{ は奇数, } p_3 = 6.$$

$$n \geq 2 \text{ のとき} \quad \prod_{k=2}^n \frac{a_k}{a_{k-1}} = \prod_{k=2}^n \frac{q_k}{p_k} \quad \text{ゆえに} \quad \frac{a_n}{a_1} = \prod_{k=2}^n \frac{q_k}{p_k}$$

$$\text{したがって} \quad a_n = 3 \prod_{k=2}^n \frac{q_k}{p_k} = \frac{3q_2q_3 \cdots q_n}{p_2p_3 \cdots p_n}$$

$n \geq 3$ のとき, $p_2p_3 \cdots p_n$ は偶数であり, 一方, $3q_2q_3 \cdots q_n$ は奇数であるから, a_n は整数ではない. よって, a_n が整数となる n は

$$n = 1, 2$$

$$\text{別解} \quad \frac{q_n}{p_n} = \frac{2(2n+1)}{n(n+1)} = \frac{2}{n} + \frac{2}{n+1} \quad \text{より}$$

$$n \leq 3 \text{ のとき} \quad \frac{q_n}{p_n} > 1, \quad 4 \leq n \text{ のとき} \quad \frac{q_n}{p_n} < 1.$$

したがって $a_1 < a_2 < a_3 > a_4 > a_5 > \cdots > a_n$

$$a_3 = \frac{35}{6}, \quad a_4 = \frac{21}{4}, \quad a_5 = \frac{77}{20}, \quad a_6 = \frac{143}{60}, \quad a_7 = \frac{143}{112}, \quad a_8 = \frac{2431}{4032}$$

$n \geq 8$ のとき, $a_n < 1$ となる. よって, a_n が整数となる n は $n = 1, 2$



3 C 上の点 $P(p, p^2)$ に対して $(-1 \leq p \leq 1)$, $\overrightarrow{OP'} = \frac{1}{k}\overrightarrow{OP}$ とおくと

$$\overrightarrow{OP'} = \frac{1}{k}\overrightarrow{OP} = \frac{1}{k}(p, p^2) = \left(\frac{p}{k}, k\left(\frac{p}{k}\right)^2\right)$$

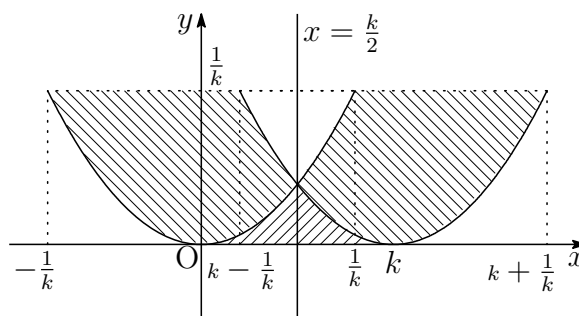
$-\frac{1}{k} \leq \frac{p}{k} \leq \frac{1}{k}$ から, P' は放物線 $y = kx^2$ $\left(-\frac{1}{k} \leq x \leq \frac{1}{k}\right)$ 上にある. また, 線分 OA 上の点 $Q(q, 0)$ に対して $(0 \leq q \leq 1)$

$$k\overrightarrow{OQ} = k(q, 0) = (kq, 0)$$

$\overrightarrow{OR} = \overrightarrow{OP'} + k\overrightarrow{OQ}$ より, R は点 P' を x 軸方向に kq だけ平行移動した点である. このとき, $0 \leq kq \leq k$ であるから, 次のように場合分けを行う.

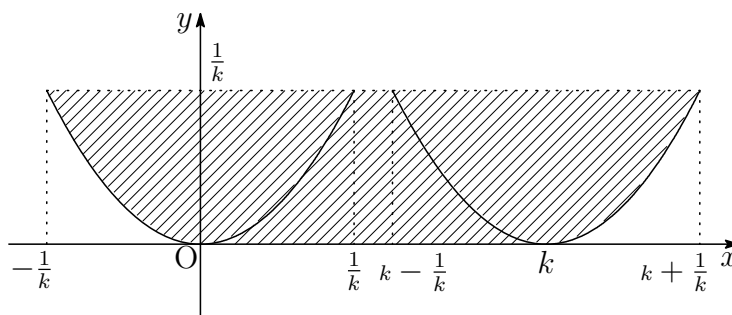
(i) $k - \frac{1}{k} < \frac{1}{k}$, すなわち, $k < \sqrt{2}$ のとき

$$S(k) = 2 \times \frac{1}{k} \cdot k - 2 \int_0^{\frac{k}{2}} kx^2 dx = 2 - 2 \left[\frac{k}{3}x^3 \right]_0^{\frac{k}{2}} = 2 - \frac{k^4}{12}$$



(ii) $\frac{1}{k} \leq k - \frac{1}{k}$, すなわち, $\sqrt{2} \leq k$ のとき

$$S(k) = \frac{1}{k} \left\{ k + \frac{1}{k} - \left(-\frac{1}{k}\right) \right\} - 2 \int_0^{\frac{1}{k}} kx^2 dx = 1 + \frac{4}{3k^2}$$



(i), (ii) の結果から $\lim_{k \rightarrow +0} S(k) = 2$, $\lim_{k \rightarrow \infty} S(k) = 1$ ■

4 $f(x) = x^3 - 3a^2x$ より

$$f'(x) = 3x^2 - 3a^2 = 3(x+a)(x-a)$$

$f(x)$ の増減表は

x	...	$-a$...	a	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	$2a^3$	↘	$-2a^3$	↗

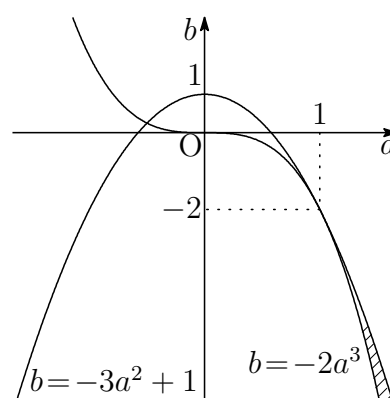
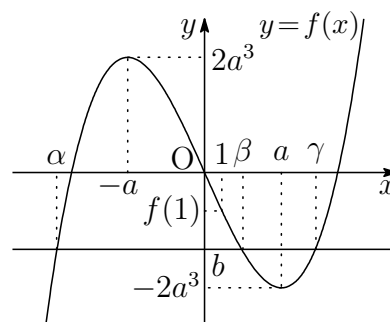
$f(x) = b$ の解 $\alpha < \beta < \gamma$ について, $\beta > 1$ であるから

$$1 < a, \quad -2a^3 < b < f(1)$$

したがって

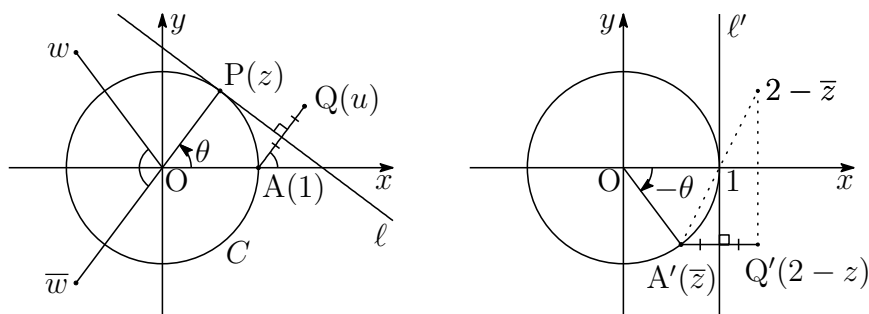
$$-2a^3 < b < -3a^2 + 1 \quad (a > 1)$$

点 (a, b) の満たす領域は, 右の図の斜線部分で, 境界線を含まない.



■

- 5 (1) $\theta = \arg z$ とし, 2点 A, Q をそれぞれ原点 O を中心に $-\theta$ だけ回転させた点をそれぞれ A', Q' とすると, $A'(\bar{z})$ を点 1 に関して対称位移動した点が $2 - \bar{z}$ で, この点を x 軸に関して対称移動した点が $Q'(2 - z)$ である.



$Q(u)$ は $Q'(2 - z)$ を原点 O を中心に θ だけ回転させたものであるから

$$u = z(2 - z) \quad \text{ゆえに} \quad w = \frac{1}{1 - u} = \frac{1}{1 - z(2 - z)} = \frac{1}{(z - 1)^2}$$

$$\text{さらに} \quad \bar{w} = \frac{1}{(\bar{z} - 1)^2} = \frac{z^2}{z^2(\bar{z} - 1)^2} = \frac{z^2}{(1 - z)^2} = z^2 w \quad \text{よって} \quad \frac{\bar{w}}{w} = z^2$$

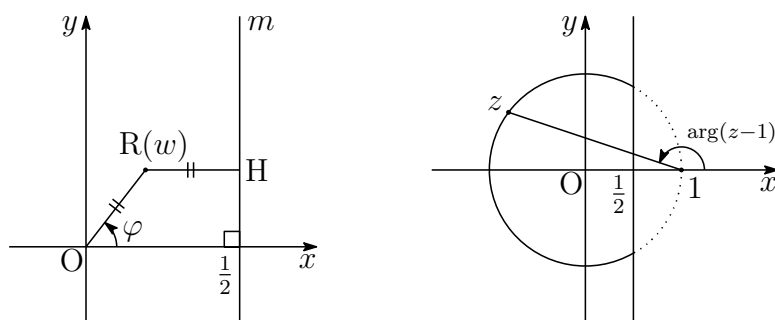
したがって

$$\frac{|w + \bar{w} - 1|}{|w|} = \left| 1 + \frac{\bar{w}}{w} - \frac{1}{w} \right| = |1 + z^2 - (z - 1)^2| = 2|z| = 2$$

(2) (1) の結果より $\arg w = -2\arg(z-1)$, $\left| \frac{w+\bar{w}}{2} - \frac{1}{2} \right| = |w| \dots (*)$

$\frac{2}{3}\pi \leq \arg(z-1) \leq \frac{4}{3}\pi$ であるから $-\frac{8}{3}\pi \leq -2\arg(z-1) \leq -\frac{4}{3}\pi$

$\varphi = \arg w$ とおくと $-\frac{2}{3}\pi \leq \varphi \leq \frac{2}{3}\pi$



複素数平面上に $R(w)$ をとり, 点 $\frac{1}{2}$ を通り, x 軸に垂直な直線 m に R から垂線 RH を引く. $r = |w|$ とすると, $(*)$ より

$$RH = \left| \frac{w+\bar{w}}{2} - \frac{1}{2} \right| = r$$

OR $\cos \varphi + RH = \frac{1}{2}$ であるから $r \cos \varphi + r = \frac{1}{2} \dots \textcircled{1}$

よって $r = \frac{1}{2(1+\cos \varphi)} \left(-\frac{2}{3}\pi \leq \varphi \leq \frac{2}{3}\pi \right) \dots (**)$

$w = x + yi$ とおくと, $x = r \cos \varphi$, $r^2 = x^2 + y^2$ であるから, $\textcircled{1}$ より

$$x + r = \frac{1}{2} \quad \text{ゆえに} \quad r^2 = \left(\frac{1}{2} - x \right)^2$$

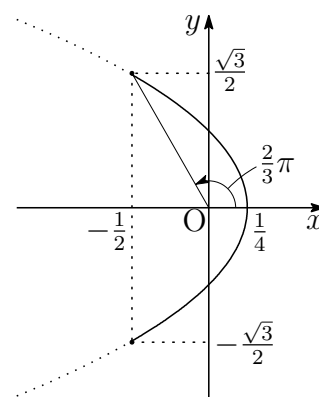
整理すると $x = \frac{1}{4} - y^2$

$(**)$ より $\varphi = \pm \frac{2}{3}\pi$ のとき $r = 1$

$\varphi = -\frac{2}{3}\pi$ のとき $\left(-\frac{1}{2}, -\frac{\sqrt{3}}{2} \right)$, $\varphi = \frac{2}{3}\pi$ のとき $\left(-\frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2} \right)$

よって, 求める軌跡の方程式は $x = \frac{1}{4} - y^2 \quad \left(-\frac{\sqrt{3}}{2} \leq y \leq \frac{\sqrt{3}}{2} \right)$

$R(w)$ の表す軌跡は, 右上の図のようになる.



補足 (**) および $\varphi = \arg w$ より, w は次式で与えられる.

$$w = \frac{\cos \varphi + i \sin \varphi}{2(1 + \cos \varphi)} \quad \left(-\frac{2}{3}\pi \leq \varphi \leq \frac{2}{3}\pi \right)$$

別解 $\theta = \arg z$ とすると, 条件から $\frac{\pi}{3} \leq \theta \leq \frac{5}{3}\pi$

$$w = \frac{1}{(z-1)^2} \text{ により}$$

$$w = \frac{1}{z^2 - 2z + 1} = \frac{\bar{z}}{z + \bar{z} - 2} = \frac{\cos \theta - i \sin \theta}{2 \cos \theta - 2} = \frac{-\cos \theta + i \sin \theta}{2(1 - \cos \theta)}$$

ここで, $\theta = \pi - \varphi$ とおくと

$$w = \frac{\cos \varphi + i \sin \varphi}{2(1 + \cos \varphi)} \quad \left(-\frac{2}{3}\pi \leq \varphi \leq \frac{2}{3}\pi \right)$$

$r = |w|$ とおくと, (**) が得られる (以下の計算は同様). ■

- 6 (1) 点 P が線分 OA 上を動くとき、点 P から平面 $y = t$ までの距離は t
 点 P が線分 BC 上を動くとき、点 P から平面 $y = t$ までの距離は $1 - t$
 したがって、平面 $y = t$ が V_1, V_3 双方と共有点をもつような t の範囲は

$$t \leq r \quad \text{かつ} \quad 1 - t \leq r \quad \text{すなわち} \quad 1 - r \leq t \leq r \quad \cdots (*)$$

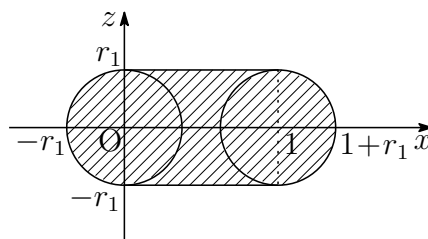
線分 OA 上の点 $P(c_1, 0, 0)$ を中心とする半径 r の球 (内部を含む) は

$$(x - c_1)^2 + y^2 + z^2 \leq r^2$$

これと平面 $y = t$ の共通部分は

$$(x - c_1)^2 + z^2 \leq r^2 - t^2, \quad y = t$$

上式は、平面 $y = t$ において点 $(c_1, t, 0)$ を中心とする半径 $\sqrt{r^2 - t^2}$ の円の内部である。点 P が線分 OA 上を動く、すなわち、 $0 \leq c_1 \leq 1$ のとき上式が通過する図形が、平面 $y = t$ と V_1 の共通部分である。この図形を平面 $y = t$ 上に描くと右のようになる。境界を含む ($r_1 = \sqrt{r^2 - t^2}$)。



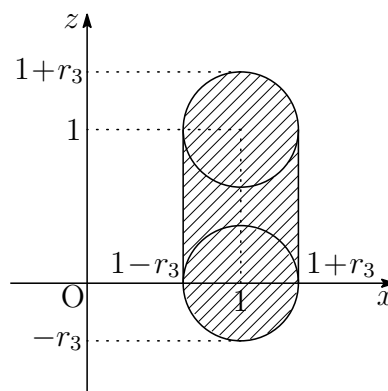
線分 BC 上の点 $P(1, 1, c_3)$ を中心とする半径 r の球 (内部を含む) は

$$(x - 1)^2 + (y - 1)^2 + (z - c_3)^2 \leq r^2$$

これと平面 $y = t$ の共通部分は

$$(x - 1)^2 + (z - c_3)^2 \leq r^2 - (t - 1)^2, \quad y = t$$

上式は、平面 $y = t$ において点 $(1, t, c_3)$ を中心とする半径 $\sqrt{r^2 - (t - 1)^2}$ の円の内部である。点 P が線分 OA 上を動く、すなわち、 $0 \leq c_3 \leq 1$ のとき上式が通過する図形が、平面 $y = t$ と V_3 の共通部分である。この図形を平面 $y = t$ 上に描くと右の図のようになる。境界を含む ($r_3 = \sqrt{r^2 - (t - 1)^2}$)。



$r_1 = \sqrt{r^2 - t^2}$, $r_3 = \sqrt{r^2 - (t-1)^2}$ であるから, これらの大小により t の値の範囲は次のようになる.

(i) $r_1 \geq r_3$ のとき

$$\sqrt{r^2 - t^2} \geq \sqrt{r^2 - (t-1)^2} \quad \text{これを解いて} \quad t \leq \frac{1}{2}$$

このとき, (*) に注意して $1 - r \leq t \leq \frac{1}{2}$

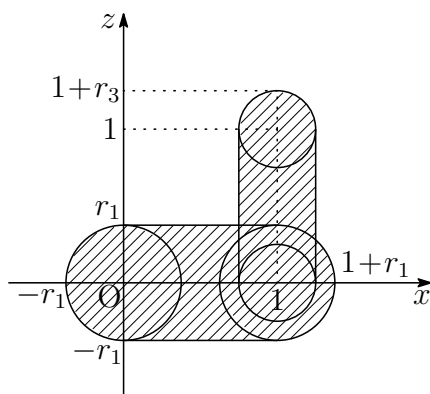
(ii) $r_1 < r_3$ のとき

$$\sqrt{r^2 - t^2} < \sqrt{r^2 - (t-1)^2} \quad \text{これを解いて} \quad t > \frac{1}{2}$$

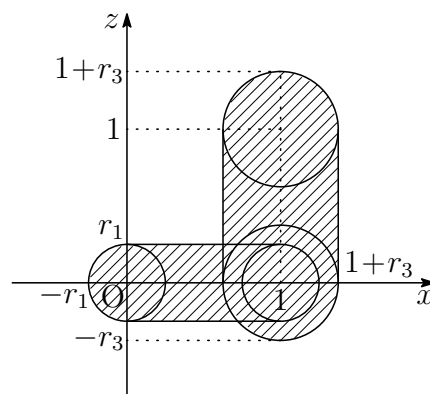
このとき, (*) に注意して $\frac{1}{2} < t \leq r$

(i),(ii) の場合について, 平面 $y = t$ と V_1 の共通部分および, 平面 $y = t$ と V_3 の共通部分を同一平面上に図示すると次のようになる.

$r_1 \geq r_3$ ($1 - r \leq t \leq \frac{1}{2}$) のとき

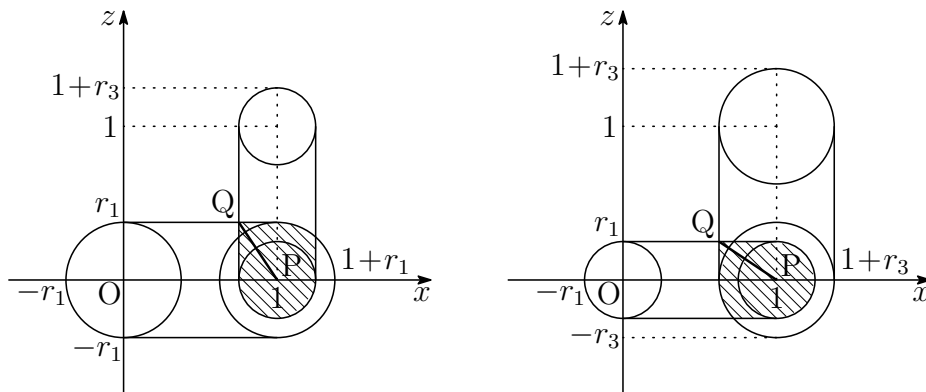


$r_1 < r_3$ ($\frac{1}{2} < t \leq r$) のとき



(2) (1)の結果から, V_1 と V_3 の共通部分を平面 $y = t$ 上に図示すると

$r_1 \geq r_3$ ($1 - r \leq t \leq \frac{1}{2}$) のとき $r_1 < r_3$ ($\frac{1}{2} < t \leq r$) のとき



また, $P(1, t, 0)$ をとり, P から領域内の点までの距離が最大となる点を Q とすると

$$\begin{aligned} PQ^2 &= r_1^2 + r_3^2 \\ &= (r^2 - t^2) + \{r^2 - (t-1)^2\} \\ &= 2r^2 - 2t^2 + 2t - 1 \end{aligned}$$

V_1 と V_3 の共通部分が V_2 に含まれるとき $PQ \leq r \quad \dots \textcircled{1}$

$$\begin{aligned} \text{ゆえに} \quad r^2 - PQ^2 &= 2t^2 - 2t + 1 - r^2 \\ &= 2\left(t - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{2} - r^2 \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

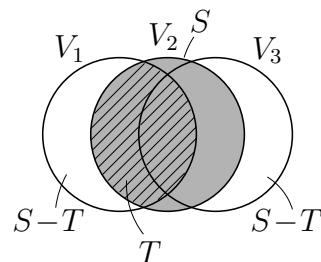
$\frac{1}{2} < r < 1$ であるから, $t = \frac{1}{2}$ は (*) の範囲に含まれる.

①, ② より $\frac{1}{2} - r^2 \geq 0$ これを解いて $r \leq \frac{1}{\sqrt{2}}$

与えられた r の値に注意して $\frac{1}{2} < r \leq \frac{1}{\sqrt{2}}$

(3) V_1 の体積 S から V_1 と V_2 の共通部分の体積を引いた体積, V_3 の体積 S から V_3 と V_2 の共通部分の体積を引いた体積はともに $S - T$, V_2 の体積が S であるから, V_1, V_2, V_3 を合わせて得られる立体の体積は

$$2(S - T) + S = 3S - 2T$$



(4) S は半径 r の半球が 2 つと底面の半径 r , 高さ 1 の円柱の体積の和より

$$S = \frac{4}{3}\pi r^3 + \pi r^2 \cdot 1 = \frac{4}{3}\pi r^3 + \pi r^2$$

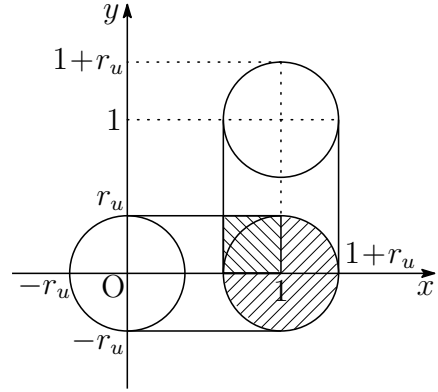
球面 $(x-1)^2 + y^2 + z^2 = r^2$ の平面 $z = u$ による断面は $(-r \leq u \leq r)$, 円

$$(x-1)^2 + y^2 = r^2 - u^2$$

であり, この円の半径を r_u とすると

$$r_u^2 = r^2 - u^2$$

したがって, T の平面 $z = u$ による断面は, 右の図の斜線部分である.



右の図の斜線部分の面積は

$$\frac{3}{4}\pi r_u^2 + r_u^2 = \left(\frac{3}{4}\pi + 1\right) r_u^2 = \left(\frac{3}{4}\pi + 1\right) (r^2 - u^2)$$

$$\text{よって } T = \left(\frac{3}{4}\pi + 1\right) \int_{-r}^r (r^2 - u^2) du = \left(\frac{3}{4}\pi + 1\right) \cdot \frac{4}{3} r^3 = \left(\pi + \frac{4}{3}\right) r^3$$

(3) の結果により, V の体積は

$$\begin{aligned} 3S - 2T &= 3 \left(\frac{4}{3}\pi r^3 + \pi r^2 \right) - 2 \left(\pi + \frac{4}{3} \right) r^3 \\ &= \left(2\pi - \frac{8}{3} \right) r^3 + 3\pi r^2 \end{aligned}$$

■